

まるごと初中級(A2/B1)クラスにおけるプロジェクトワークの試み

遠藤 クリスティーナ 麻樹

サンパウロ日本文化センター

1. 基本情報

実施機関名	国際交流基金サンパウロ日本文化センター
実施コース名	JF まるごと日本語講座 クラス: 初中級② レベル: A2/B1
実施日時または期間	2015年2月5日～2015年6月25日
授業時間	120分@1コマ、1回x20週=20回
授業担当講師	報告者
クラスの学習者数	4人
学習者の属性	性別: 男性2人 女性2人 年齢: 20代1人 30代3人 職業: 会社員2人、公務員1人、自営業者1人
使用教材	『まるごと 日本のことばと文化 初中級(A2/B1)』

2. 実践の背景と問題意識

(1) コースの位置づけと学習者の背景

国際交流基金サンパウロ日本文化センター(以下、FJSP)のJFまるごと日本語講座(以下、まるごと講座)は2012年に開講され、2015年の前期(2月から6月まで)には、教科書『まるごと 日本のことばと文化』(以下、『まるごと』)の入門(A1)から初中級(A2/B1)を使用している。

FJSPのまるごと講座では、入門(A1)クラスから初級2(A2)クラスまでは活動クラスと理解クラスに分けており、学習者は1セメスターに活動または理解クラスのいずれかを学ぶようになっている。(図1を参照)

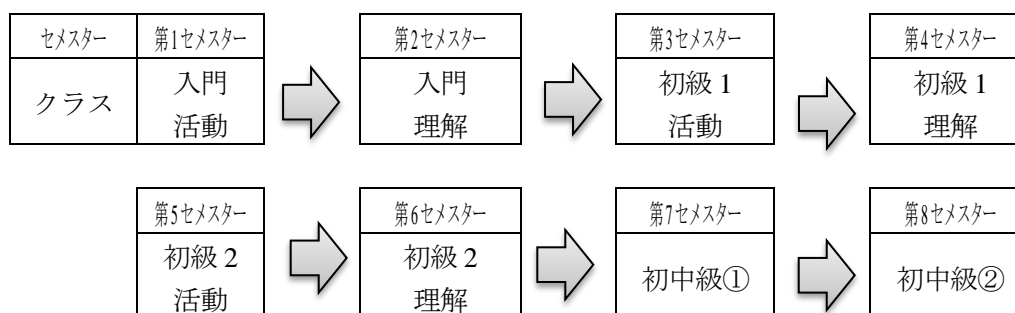


図1 FJSPのまるごと講座でのコースの取り方

初中級クラスは①と②に分かれ、初中級①では、1 セメスターで教科書『まるごと 日本のことばと文化 初中級(A2/B1)』のトピック 1 から 5 まで、初中級②では、トピック 6 から 9 までを学習する。

1 セメスターで週 1 回の授業を 20 回行い、教師は教科書の 1 トピックを 3 回の授業に分けて教える。(表 1 を参照)

表 1 1 セメスターでの初中級クラスの授業の構成

クラス	トピック	授業の構成(週 1 回、合計 20 回)
初中級①	1～5	5 トピック x 3 回 = 15 回 オリエンテーション 1 回 筆記テスト 1 回 会話テスト 1 回 復習 1 回 ふり返し 1 回
初中級②	6～9	4 トピック x 3 回 = 12 回 オリエンテーション 1 回 筆記テスト 1 回 会話テスト 1 回 プロジェクトワーク 5 回

表 2 2015 年前期の初中級②クラスの学習者のプロフィール

学習者	まるごと講座 入学年及び入 学クラス	児童時 日本語 を学習	日本 在住	クラス外での日本語接触
C (女性、30 代)	2013 年後期 初級 2 活動	○	○	時々親戚と会うときに使う
F (男性、20 代)	2014 年前期 初級 2 理解	×	×	親戚と会うときに使う 習い事、教会、日系団体機関などで使う
K (男性、30 代)	2014 年後期 初中級①	×	○	習い事、教会、日系団体機関などで使う
Y (女性、30 代)	2014 年前期 初級 2 理解	○	×	月に 1、2 回ぐらい電話で母と話す

2015 年前期の初中級②クラスの学習者は 4 人で、全員日系人だった。子どもの頃、日本語を習ったことがある人もいれば、日本に住んでいたことのある人もおり、まるごと講座を受講する以前から日本語に接する経験があった。(表 2 を参照)

また、まるごと講座を初級 2 活動クラスから始めた学習者が 1 人、初級 2 理解からが 2 人、

そして初中級①からが1人で、このクラスの学習者は、全員『まるごと』の初級2あるいは初中級のトピックの学習経験がある。表3に、4名の学習者の成績をまとめた。表3中、「◎」「○」「△」の記号は、会話テストの結果であり、その意味は表4の通りである。

表3 学習者の成績

学期	クラス	テスト	学習者C	学習者F	学習者Y	学習者K
2013 後期	初級2	中間	◎4 ○1 △0			
	活動	期末	◎4 ○1 △0			
2014 前期	初級2	中間	94.5/100	85/100	97.5/100	
		理解	期末	100/100	98/100	98/100
2014 後期	初中 級①	筆記	90/100	82/100	96/100	94/100
		会話	◎3 ○1 △1	◎0 ○3 △2	◎5 ○0 △0	◎3 ○2 △0
2014	J L P T		N4 不合格 言語知識 54/120 聴解 27/60 総合得点 81/180		N3 合格 言語知識 32/60 読解 27/60 聴解 53/60 総合得点 112/180	N3 不合格 言語知識 26/60 読解 26/60 聴解 36/60 総合得点 88/180

表4 会話テストの評価

	初級2活動	初中級
もっと すごい ◎	身近なことについて、はっきりした話し方で質問されたら、すぐに全部答えることができる。2つ以上の文を続けてたくさん話することができる。	身近なことについて、いろいろな情報をまとめて話すことができる。身近なことについて、自分で会話を始め、続け、終わることができる。
合格 ○	身近なことについて、はっきりした話し方で質問されたら、ほとんど答えることができる。	身近なことについて、文をいくつか並べて話すことができる。身近なことについて、自分で会話を始め、続け、終わることがだいたいできる。
もう 少し △	身近なことについて、はっきりした話し方でとてもゆっくり質問されたら、少し答えることができる。	身近なことについて、単純な文で言うことができる。身近なことについて、自分で会話を始め、助けがあれば、続け、終わることができる。

表3中、前学期（2014年後期・初中級①クラス）の会話テストの結果を見ると、4人全員が5回のうち3回以上で合格（○）以上の評価を得ている。4人とも少なくとも「○」の「身近な

ことについて、文をいくつか並べて話すことでできる」レベルに到達していると想定した。

また、初級2理解クラスおよび初中級①の筆記テストでは、A2 レベル相当の文法や聴解、読解問題が理解できるかを測っているが、全員 100 点中、80 点以上取っている。従って、A2 レベルの基本的で日常的な場面でのやりとりを達成するために必要な言語能力も備えていると判断した。

(2) 問題意識

しかし、クラスで会話が達成できても、実際、日本の人と話すとき、会話は成り立つのだろうか。初中級②の学習者たちは、これから中級に進むレベルであり、それまで学んだ日本語を実際の場で使うことは重要な意味をもつ。そこで、まず、ブラジル・サンパウロ市において、クラス外での日本語使用がどの程度可能なのか、また、さらに、学習者はそのような機会を利用して、クラスで学んだ会話を使っているのかを知る必要があると考えた。

まず、日本語をリソースとして使用できる日本人長期滞在者や日系人の人口を見てみる。サンパウロ市は多くの日本移民を受け入れており、在サンパウロ日本国総領事館のサイトによると、2008 年の大サンパウロ圏（サンパウロ市周辺の市も含まれる地域）には日系人が約 40 万人在住している。また、日本の企業も約 150 社あり、日本人長期滞在者が 1230 名もおり、サンパウロ市は日本語リソースが豊富なところだと言えるだろう。従って、学習者がクラス外で日本語を使おうと思えば、使えるのではないかと考えられる。

次に、このような環境の中で、実際に学習者は日本語を使う機会があるのかも知る必要がある。クラス外で日本語を使う機会があるかどうかについて学習者たちに聞いた結果、親戚と会ったときや日系コミュニティなどで使ったりしていると答えた。ところが、日系コミュニティや親戚と話すとき、多くの日系人は日本語、ポルトガル語を混ぜて話してしまう傾向があり、日本語だけの会話が成立しないことがある⁽¹⁾。上記でも述べたように、サンパウロ市には日本語だけで話し、現在の日本を伝えられる日本人長期滞在者はいるが、このクラスの学習者たちは、必ずしもそのような日本人と接点をもっているとは限らないようである。彼らのネットワークだけでは、日本人と話す場はなかなか作りにくいのではないかと考えた。従って、初級レベルを終えて、中級に進む学習者たちがそれまで学んだ日本語を実際の場で使用できるようになるためには、教室内と教室外の橋渡しの活動が必要だと考えた。

3. 実践内容

(1) プロジェクトワークとその目的

前述の通り、教室で問題なく日本語の会話が達成できても実際の場で習った日本語を活かす機会が少ない初中級クラスを終了間近の学習者たちに、クラス外で日本語が使用できる機会を

提供する必要性を感じ、プロジェクトワークをすることにした。田中・猪崎・工藤(1994)によると、プロジェクトワークとは「学習者ができるだけ生のコミュニケーションに近い形の日本語に触れ、自分でも使ってみること、そして今まで身につけた日本語の力がどのくらい役に立つものか体験する」活動である。

この活動を通して、学習者たちが『まるごと』で習った日本語を接点の少ない日本人との実際の場で使って自分の日本語に自信を持ち、より自律・自立的に活用できるようになることを目的とした。

(2) プロジェクトワークの概要

プロジェクトワークは、第8セメスターの20回の授業のうちの5回の授業を利用して行うことにした。プロジェクトワークの概要と全体の流れは、表5にまとめた。以下、この表に沿って、各授業の詳細について述べる。

1回目「テーマ・アクティビティを決める」

教師は、プロジェクトワークの目的と進め方について説明した後、各学習者に今まで学習した日本語を使ってどんなクラス外のアクティビティができるかについて考えさせ、ポストイットに書かせた。

その結果、学習者からは、「折り紙を教える」、「劇」、「日本の遊びのチュートリアル」、「下級生に教える」、「日系人老人ホームを訪問」など彼らが今まで学習したテーマとはかけ離れたアクティビティの提案が多く出された。そこで、もう一度、教科書にどんな場面があり、どんな時にそのトピックの会話が使えるのかについて話し合わせた。

その後、「折り紙を教える」、「劇」、「日本の遊びのチュートリアル」など今まで習ったトピックとは関連のないアクティビティを取り除いていった結果、「日系人老人ホーム訪問」が残った。「日系人老人ホームを訪問」するとしたら、どんな会話が考えられるかについてディスカッションさせたところ、『まるごと』で学習したトピックと結びつく「初めて会った人との会話」が浮かび上がった。

しかし、前述したように、多くの日系人は日本語、ポルトガル語を混ぜて話してしまう傾向があり、日本語だけの会話が成立しないことがある。よって、「日系人老人ホーム訪問」以外の場所で、「初めて会った人との会話」ができる場面について検討した。学習者たちが日系人ではない人と日本語で話す場面を思い浮かべることができなかつたので、教師は日本から来ている駐在員、またはその引率者や日本人留学生などの可能性について提案した。

表5 プロジェクトワークの全体の流れ

回数	活動内容	準備	進め方
1	テーマ・アクティビティを決める	学習者が持参:教科書『まるごと』 教師が用意:ポストイット	1. プロジェクトワークの目的と進め方について説明 2. 学習者一人ひとりにポストイットを数十枚配り、1枚のポストイットに今まで学習した日本語を使ったアクティビティを1つ書く 3. 全員でアクティビティを出し合う 4. 各アクティビティが今まで習ってきたことを活かすことができるかを検討していく
2	アクティビティ「サンパウロ案内」でどんなことをするか考える	学習者が持参:『まるごと』 教師が用意:日本語ボランティアの募集	1. 「サンパウロ案内」の日程の決定 2. 日本語ボランティアとどんな会話をするかを検討する(メールでの誘い方/移動中、案内中の会話/レストランでの会話/帰るときの挨拶など)
	各学習者、日本語ボランティアを「サンパウロ案内」にメールで誘う		
3	ロールプレイで会話練習	学習者が持参:『まるごと』 教師が用意:ロールカード	1. 各場面、4人で行う 2. 場面ごとに学習者役と日本人役を変える
	「サンパウロ案内」を行う		
4	フィードバック・発表準備		1. 「サンパウロ案内」で思ったように日本語で会話できたか、グループで話し合い 2. 「サンパウロ案内」についての発表への準備
5	発表		パワーポイント使用可能

最終的に、駐在などでブラジルに滞在する日本人を対象に「サンパウロの観光地の案内」(以下、「サンパウロ案内」)という活動をすることに決まった。

このように、テーマ・アクティビティを考えるにあたって、最初から簡単に決まったわけではなかった。原因の一つは、学習者たちが、活動する相手を探すところからプロジェクトワークの活動の一部と認識し、それを念頭においたアイデアを出そうとしたからであると考えられる。自分たちでは探しにくい相手であっても、教師が手配してくれる場合があることを最初に伝えておけば、テーマ・やアクティビティを考えるうえで、もう少し実際に習った事の使用と直結

する場면을イメージしたかもしれない。

2 回目「アクティビティ「サンパウロ案内」でどんなことをするか考える」

2 回目の授業では、まず「サンパウロ案内」の観光場所と日程を決めた。それから、日本の人にサンパウロを案内する際、どのような場面が考えられるか、どんな会話をするかについて話し合い、さらにそこから『まるごと』で学習したトピックの中で利用できる場面や会話があるかを話し合った。学習者たちがあげた場面と『まるごと』で利用できるトピックは表 6 のとおりである。

表 6 「サンパウロ案内」での想定場面と『まるごと』で利用できるトピック

	想定場面	『まるごと』で利用できるトピック
①	メールで「サンパウロ案内」への招待	初中級トピック 1「スポーツの試合」
②	初対面での自己紹介	初級 2 活動トピック 1「新しい友だち」
③	移動中、案内中の会話	初級 2 活動トピック 3「沖縄旅行」
④	レストランでの会話	初級 2 活動トピック 2「店で食べる」 初中級トピック 3「ほっとする食べ物」
⑤	帰るときの挨拶	

しかし、実際に「サンパウロ案内」に誘いのメールを書く際、初めてメールする人宛に何を書けばいいのかが問題としてあがった。よって、教師は挨拶の仕方を教え、クラスでは何を書いていけばいいのかを話し合い、メールのモデル文を作成するよう促した。初中級②クラスでは、Facebook 上に、「まるごと初中級②クラス」の非公開のグループを設けている。学習者たちはそのグループにモデル文を投稿し、教師は内容をチェックした。そのやりとりは図 2 のとおりである。

授業外で教師は「サンパウロ案内」に参加できる日本語ボランティアを募集した。募集方法は主に知人や FJSP の図書館に通う日本の方に声をかける方法をとった。学習者 1 人に日本語ボランティアが 1 人つくように、合計 4 人の日本人の人に協力を求めることとし、結果、4 人の日本人の協力者を集めることができた。4 人とも女性で、20 代から 40 代の人たちだった。内訳は駐在員の妻が 2 人、留学生が 2 人だった。

日本語ボランティアが決まった後、各学習者は各 1 人の日本語ボランティアに「サンパウロ案内」への招待メールを送った。

3 回目「ロールプレイで会話練習」

3 回目の授業では、前回話し合った「サンパウロ案内」での想定場面を基に教師が事前にロールカードを作成し、以下の手順でロールプレイを行った(ロールカードは資料1を参照)。

- a. 各学習者は A、B、C、D のいずれの一つのロールカードを演じる。各場面で A、B、C、D の役割は日本人になったり、ブラジル人になったり役が変わると説明する。
- b. ロールカードを配る。
- c. どんな場面があるのかを確認する。ロールプレイを始める前に自分は日本人の役なのか、ブラジル人の役なのかを言う。

学習者たちは上記の手順通り、ロールプレイを行った。しかし、学習者によってどう言えばいいか戸惑っていたため、他のクラスメイトに助けをもらいながら活動を達成していた。

最後に、「サンパウロ案内」に対する思いや期待などについて話し、質問シートに書き込んでもらった。学習者たちがどう答えたかについては(3)①で述べる。

4 回目「フィードバック・発表準備」(サンパウロ案内後)

この授業では「サンパウロ案内」実施後に、活動の印象や期待通りにできたかなどについてグループで話し合った。ここで、学習者が記入した質問シート内容については(3)①で述べる。話し合いの後には、次回の発表の準備を行った。

5 回目「発表」

学習者4人のうち、学習者 K は家庭の事情のため、参加しなかったが、他の3人はパワーポイントを使用して発表した。1人3分程度の発表で、活動当時の写真を見せながら話し、案内中のハプニングや活動をして気づいたことや感じたことなどを、ふり返りながら発表を行った。

20 de abril · Editado

NAME様、初めてメールさせていただきます。
 私は と申します。まるごと日本語講座の初中級の学生です。
 現在、私たちはクラスでプロジェクトワークをしています。そこで、まき先生が
 NAME様を紹介してくれましたので、5月9日にMERCADAOと言う観光地へ行きますが、一緒に行きませんか。
 美味しいくだものがたくさんあって、MORTADELAのサンドイッチも売っています。一度食べたら、ファンになりますよ。

待ち合わせ:私たちはFUNDACAO JAPAOのビルのロビーで9時半に会おうと思っています。どうですか。

NAME様の返事をしてくれるのを楽しみに待っています。
 何かあったら、私に電話してください。電話番号は

Descurtir · Comentar

👍 Você, outras 2 pessoas ✓ Visualizado por 8
 curtiram isso.

 **Maki Endo** そこで、まき先生がNAME様を紹介してくれましたので、5月9日にMERCADAOと言う観光地へ一緒に行きませんか。
 20 de abril às 17:37 · Curtir · 👍 1

 **Maki Endo** 美味しいくだものがたくさんあって、MORTADELAのサンドイッチも売っています。
 20 de abril às 17:38 · Curtir · 👍 1

 **Maki Endo** 後はOkだと思います!!!
 20 de abril às 17:38 · Curtir · 👍 1

21 de abril às 10:32 · Descurtir · 👍 1

 **Maki Endo** いいです!
 21 de abril às 10:47 · Curtir

21 de abril às 10:49 · Descurtir · 👍 1

 **Maki Endo** ドキドキ❤️だね!
 21 de abril às 10:56 · Curtir · 👍 1

21 de abril às 10:59 · Curtir

 **Maki Endo** さんに電話をかけたくないですか。それとも、さんから電話がかかって来ないでほしいですか。☐
 21 de abril às 11:12 · Curtir · 👍 1

21 de abril às 11:14 · Curtir

* 個人情報が特定されるところはマスキングした

図2 Facebook グループでの教師と学習者のやりとり

(3) 実践の成果

① 「サンパウロ案内」に対する学習者の期待と気づきおよび日本語ボランティアのコメント

日本人に接することに対して学習者はどう思うか、または「サンパウロ案内」を行ってどう思ったかについて学習者に活動前、活動後に質問をした。

活動前の質問は第3回目の授業で行い、「サンパウロ案内」に対してどんな気持ちなのか、「サンパウロ案内」で何ができるようになりたいかについて聞いた。

学習者たちの活動前の回答は表7のとおりである。

表7 学習者の活動に対する期待

学習者	「サンパウロ案内」に対してどんな気持ちですか	「サンパウロ案内」で何ができるようになりたいですか
C	待ち遠しい	まだまだ学ぶことが多いので、困難なシチュエーションに合うのはわかっている。そのため、あまりいい結果が見られないと思う。でも、より自然な会話ができるようになるためにはこのような経験は避けられないことだと思う
F	緊張している	積極性を出したい。日本語がもう少し流暢になりたい。間違えるのを恐れないようになりたい
K	緊張している	日常的な話題を自然に話したい。急な質問でもすぐに答えたり、話せたりしたい。習った表現を使ったり、新しい語彙を覚えたりしたい
Y	緊張している。相手が日本人、日系人だったら、私が、日本語ができるのは当然だと思われるので日本語で話すのは恥ずかしく感じる	恥ずかしさを少しなくしたい。多くの友人は日本語ができない人たちなので、日頃の日常ではなかなか日本語を話す機会がない。現在、母としか日本語で話していない

「「サンパウロ案内」に対してどんな気持ち」の質問に関しては、学習者4人のうち、3人は緊張していると答えた。学習者Yが述べたように「日頃の日常ではなかなか日本語を話す機会がない」ために、他の2人もそう答えたのではないかとと思われる。

そして、日本の人と話す機会が少ない学習者たちは「困難なシチュエーションに合う」とわかっているにもかかわらず、「恥ずかしさ」や「間違い」を恐れないで、「積極」的に「習った表現を使ったり、新しい語彙を覚えたりしたい」ようだ。

「サンパウロ案内」後、4 回目の授業で、活動についてグループで話し合った後、①「サンパウロ案内」はどうだったか、②「サンパウロ案内」は期待通りにできたか、③クラスで習った日本語を実際に使ったかについて答えてもらった。その質問に対する学習者の回答は表 8 のとおりである。

活動をどう思ったかに関しては、4 人中 3 人は「難しかった」と答えているが、4 人とも「楽しかった」と答えている。学習者たちは活動前、困難なシチュエーションを乗り越えるために緊張していたようだが、実際活動を行ってみた結果、楽しんで日本語ボランティアたちと話したようである。

「サンパウロ案内」は期待通りにできたかについては、学習者 C、F は「もう少し勉強すればよかった」「もっと勉強しなくてはなりません」と答えており、自分に厳しい評価をしている。学習者 K も「前もって勉強して練習した方がよかった」と述べており、クラスで練習を重ねないと話せないと思っているようだ。しかし、実際の方は予想がつかないことが起きるのが当たり前で、いくらクラスで型にはめて練習しても実際の場面ではうまくいかないことが多いのではないと思う。従って、学習者たちに必要なのは言語能力ではなく、困難なシチュエーションでも達成できるように、コミュニケーションストラテジーを身につけることだと思った。この質問に関して、学習者 Y は「自分の町についてもっと知るべきだ」と答えており、言語側面より、文化側面の気づきがあったと思われる。日本の人と話すことによって、自分の町についてどんなに知らないのかに気づき、自文化について見つめ直すきっかけになったようである。

クラスで習った日本語を実際に使えたかどうかについては、「自己紹介、観光の話、食べ物、結婚」や「ある果物が何に似ているかの話とかレストランのメニューの説明」など授業で取り上げたトピックについて述べる人もいれば、「文型と表現が使えた」といった言語面からの意見を述べる人がいた。使用の頻度を見てみると、「すこしだけ」、「少しだけ使うことができた」「わからないときは英語を使った」などと答えており、クラスで学習したことを実際の場ではあまり使えなかったように見える。

このように学習者は自分に厳しい評価をしている。一方、日本語ボランティアに対しても、彼らの視点から学習者の日本語についてどう思ったかという点について聞いている（表 9）。その回答について述べる。

日本語ボランティアには①プロジェクトワークはどうだったか、②学習者はボランティアの日本語が理解できていたか、③学習者は自分の言いたいことが日本語で言えていたかについて質問した。その質問に対するボランティアの回答は表 9 のとおりである。

学習者たちがボランティアの日本語が理解できていたかどうかについては、ボランティアたちは「だいたい理解できているよう」、「簡単な言葉に変えたり、ゆっくりもう一度質問したら、理解できていた」、「日本人がスピードを落とさず話す日本語を理解している様子」、「日常会話

に使用される言い回しなど問題ない」と答えている。

また、学習者は自分の言いたいことが日本語で言えていたかどうかについては、「何を伝えたいかは問題なく理解できた」、「殆どの会話は問題なく話せていた」、「日常会話は問題ない」と答えている。従って、学習者たちの聞く力及び話す力に関しては基本的で、日常的な会話で、相手が言い換えをしたり、ゆっくり話したりすれば理解でき、ある程度話せるようだ。

学習者たちの厳しい自己評価と違って、ネイティブスピーカーは「簡単な言葉に変えたり、ゆっくりもう一度質問したら、理解できていた」、「日常会話に使用される言い回しなど問題ない」、「殆どの会話は問題なく話せていた」などとポジティブな評価をしており、初級2活動クラスの会話テストでの合格ラインの「身近なことについて、はっきりした話し方で質問されたら、ほとんど答えることができる」が教室外でも達成できたと思われる。

さらに日本語ボランティアのMは「少し専門的な単語や言い回しは難しいよう」「1つ1つのトピックをより深く掘り下げる会話はまだ難しいよう」と述べているが、「少し専門的で1つのトピックを掘り下げて会話をする」のはA2レベル相当ではまだできない能力であり、学習者たちがこれから身につけていくB1レベルの能力を指している。

また、日本語ボランティアの回答には「分からない言葉があった際には学生さん同士で教え合ったり、インターネットで調べる」、「日本語学習者同士、出てこない単語などを質問したり教え合ったりする」などの注目すべき回答があった。授業で常に行なう協働学習や学習ストラテジーが自然に習慣化されたのではないかと思われる。

さらに、「積極的に話していた」、「可能な限り、会話を続けようと試みている姿」といった学習者たちの態度も評価され、学習者たちには対話を続けるために必要なスキルが身につけていると思えた。

プロジェクトワークの活動について学習者と日本語ボランティアのコメントをまとめると、学習者たちは「サンパウロ案内」は難しかったと思いつつ、活動はある程度達成できたと自己評価し、日本語ボランティアは、学習者たちを彼らに相当するA2レベルと評価している。従って、この活動を通して、学習者たちは『まるごと』で習った日本語を実際の場で、ある程度運用することができたと考えられる。

表 8 学習者の活動後の気づき

学習者	「サンパワロ案内」はどうでしたか	「サンパワロ案内」は期待通りにできましたか	クラスで習った日本語を実際に使いましたか
C	楽しかった。楽しかった。日本語ボランティアの人たちはとても親切で面白い人たちだったので活動が楽しくできたと感じています	部分的にできました。基本的な語彙を思い出しました。会話に必要な言葉をもっと勉強すればよかったと思います	すこしだけ。自己紹介、観光の話、食べ物、結婚などコースで習ったテーマについて話すことができました
F	楽しかった。楽しかった。日本人とあまり流暢に話すことができません	部分的にできました。あの日に体験する全場面を予想することができなかつたし、語彙の数がまだ少ないからです。もっと勉強しなくてはなりません	はい。ある果物が何に似ているのかの話とかレストランのメニューの説明とか
K	楽しかった。楽しかった。日常的に日本語をあまり使わないので、日本人たちと話すのはおもしろかったです	自分の考えを表現するのに少し大変な感じがしました。実際に日本語を使うことがあまりないので、多くの場合、きちつと表現することができません。前もって勉強して練習した方がよかったです	授業でみたいくつかの文型と表現を少しだけ使うことができました
Y	楽しかった。もう少し年配の人が参加すると思っていたけど、全員若いボランティアの人たちで、私たちと似たような日常だったので楽しかったです	話すときにそんなに恥ずかしくなかったです。思ったより易しかったです。自分の町についてもっと知るべきだと思いました。そうしたらどんなものを買ったらいいのか、食べたらいいのかなどについて、もう少し説明ができたと思います	はい。旅行、食べ物(作り方、食べ方)など。わからないときは英語を使いました。ボランティア同士が話す日本語は早くてわかりにくかったです

表 9 日本語ボランティアの活動後のコメント

ボランティア	プロジェクトはどうか	学習者はボランティアの日本語が理解できていたようでしたか	学習者は自分の言いたいことが日本語で言えていましたか
I	面白かった。一生懸命日本語で伝えよう、質問しよう、とみなさんが頑張る姿を見て、私も刺激を受けた。彼らは日本語のトレーニングに、私たち日本人にはブラジルの文化を知る、良い機会になったと思う	私たち日本人がした質問は、だいたい理解できているようだった。わかっていない様子の時は、簡単な言葉に変えたり、ゆっくりもう一度質問したら、理解できていた	言えていたと思う。助詞や単語の選択は少し不自然なところも多少あったが、何を伝えたいかは問題なく理解できた。また、日本語学習者同士、出てこない単語などを質問したり教え合ったりして、良いと思っ
S	面白かった。日本に対する見方、日本語に対する向き合い方が、生徒さんそれぞれ面白い興味深かった	話がかみ合わないという事もなく、また私達日本人がスピードを落とさず話す日本語を理解している様子だった	殆どの会話は問題なく話せていたと思いますが、時々「おじいさん」と「おばあさん」を混乱したりしたという事がみられた
Z	面白かった。普段、ブラジルの方と買い物などに行くことが無い為、日本にない食べ物や食べ方などを教えてもらうことができた	時々分からない言葉があった際には学生さん同士で教え合ったり、インターネットで調べるなどで理解していました。ただ、全て自分自身で理解はできていなかった	個人差はありますが皆さん積極的に話していたと思います
M	面白かった以上にとっても楽しくまた私自身が「日本語」を学ぶ時間を過ごせた	日常会話に使用される言い回しなど問題ないが、少し専門的な単語や言い回しは難しいようだった	日常会話は問題ないが、1つ1つのトピックをより深く掘り下げる会話はまだ難しいようであったが、可能な限り、会話を続けようと試みている姿に私自身が学ばせていただいた

② プロジェクトワークの学習効果

今回のプロジェクトワークを通して、「学習者間の協働学習」、「既習項目の実際使用」、「活動後の気づき」、「活動の発展」などの点で学習効果があったと考えられる。

「学習者間の協働学習」についてはプロジェクトワークの2回目の授業で日本語ボランティア宛のメールを作成したときに見られた。例として、授業では学習者たちが意見を出し合いながらサンプルのメールを作成している。そして、このクラス内での協働的な行動は「サンパウロ案内」でも見られ、学習者間では習慣的に行われているものと思われる。

「既習項目の実際使用」に関しては、ボランティア宛のメールを作成したとき、学習者たちは「～てくれました」、「一緒に～ませんか」、「～たら、ファンになりますよ」、「～おうと思っています」など今まで習ってきた表現をできるだけ使用し、実際の場面に関連付けていったことから明らかである。(図3を参照)

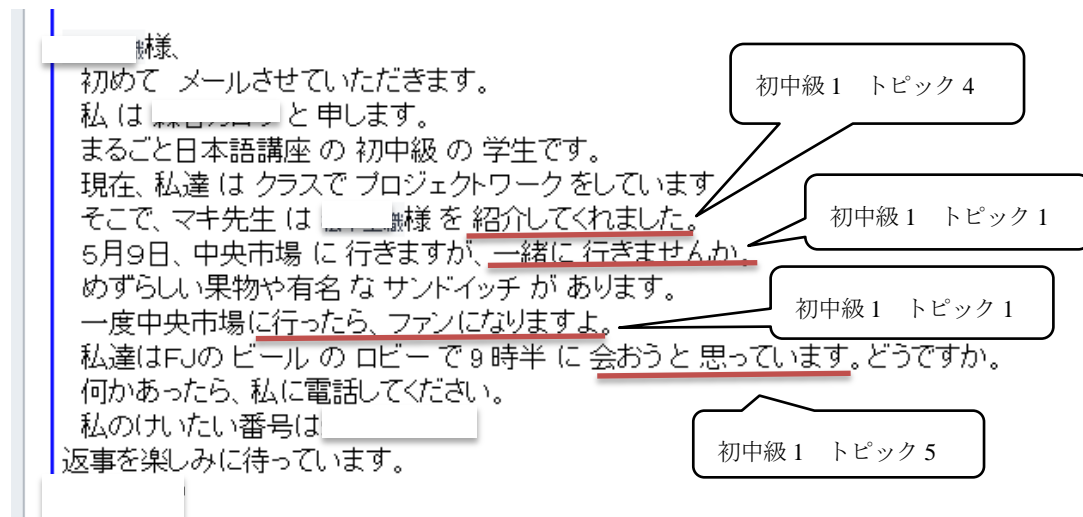


図3 日本語ボランティア宛のメールで『まると』の既習項目の使用

「活動後の気づき」については最後の授業での発表に見られた。学習者は、一人ずつパワーポイントを使いながら、「サンパウロ案内」について発表した。その発表では、「サンパウロ案内」で会話が適切に成り立たなかった点をあげてふり返りをし、どう対応すればよかったかも述べ、内省をしていた。学習者Cは言語面の気づきについて述べ、Yは言語面、文化面のふり返りをしていた。(図4を参照)

学習者たちの発表で内省する要素が見られるのは、『まると』の授業で行うポートフォリオでの自己評価などが身についたからなのではないだろうか。FJSPのまると講座では、毎回の授業の最後にはその授業で学習した can-do を自分で評価し、中間および期末テストの際、学期開始の時点で立てた目標を見直し、ふり返るようにしている。このような授業行動が今回のプ

プロジェクトワークでも自然に行ったのではないかと考えられる。

<p>習った文法(ぶんぽう)を 使いたかった けど、 つぎの文 を 言いませんでした:</p> <ul style="list-style-type: none">■『このサンドイッチはケチャップ を かけて たべます。』■『塩をかけると、しょっぱいですよ。』(だい4か) <p>上手に はなせなくて、ざんねんでした。(だい9か)</p> <p>つぎ の 機会 は もっと しゃべるように、日本語 を 勉強します!(だい10か)</p>	<p>プロジェクトワークの思いで</p> <ul style="list-style-type: none">- 私は、日本語で言葉を知らなかったとき、英語で話しました。それはダメです!- 私は自分の国のくわしいことをしらないです。もっとブラジルとサンパウロのことをさがします。- この活動を同じように何回もやってみたいです!
---	--

図4 学習者CおよびYの活動後のふりかえり(各学習者のパワーポイントのスライドより)

また、「活動の発展」は、「サンパウロ案内」の実施後、学習者たちの自立的な行動からうかがえる。例として、日本語ボランティアをサンパウロの他の観光地に誘って出かけたり、さらには現在学習者Yの自宅での食事会も企画されているようだ。

それまでの学習者の日本語使用は、主に授業内に限られていたため、実際の中で使うのを恐れていたようだったが、クラス外でのプロジェクトワークをきっかけに日本人の友人を作り、徐々に日本語・日本文化の世界が広がり、『まるごと』の理念とされている「相互理解のための日本語」が実現されつつあるように考える。

以上、プロジェクトワークの成果について述べたが、この活動を通して、学習者たちが『まるごと』で習った日本語は実際の中で使用することが可能であることを実感し、そして、教室内の活動での日本語使用に留まらず、そこから飛び出て、自立的に日本語を使用していることが確認できた。

4. これからの課題

本プロジェクトはFJSPのまるごと講座の中で初めて行われ、試行錯誤しながら実施されたものである。従って、今後検討すべき点がいくつかあるが、そのうち大きな点を2つ挙げる。1つは学習者主体で活動を決める際、教師からいくつかの活動例を提供できなかったため、彼らの日本語力で実施可能な学習テーマとはかけ離れたアクティビティを提案してきたことである。学習者がある程度、自分の能力で達成可能な活動を重い描くためには、例をあげる必要があった。しかし、教師が例をあげることによって、学習者たちは安易に例をそのまま実行してしまうことも考えられるので、要注意である。

もう1つは今回、プロジェクトワークに参加した学習者数のことである。4人の少人数で、まとまりやすく、活動の流れも順調であった。ところが、大人数で行う場合、今回のように学習者たちが協働的に、または内省しながら行動できたり、多くの日本語ボランティアの協力が

得られたりするのかは保証できない。今後いろいろな人数で行いながら検討すべき点であろう。

[注]

- (1) 工藤 (2004) によると、ブラジル日系人の会話には「コロニア語」という日本語とポルトガル語を混ぜて使用する会話が多く見られる。

[参考文献および URL]

- 工藤真由美 (2004) 「ブラジル日系社会言語調査報告」『大阪大学大学院文学研究科紀要』44(2)、1-460
- 久保田美子、八木敦子 (1999) 「マルチメディアを利用したプロジェクトワーク」『日本語国際センター紀要』第 9 号 国際交流基金日本語国際センター、55-67
- 倉八順子 (1994) 「プロジェクトワークが学習成果に及ぼす効果と学習者の適性との関連」『日本語教育』83 号、日本語教育学会、136-147
- 田中幸子、猪崎保子、工藤節子 (1994) 『コミュニケーション障子の学習活動 1 プロジェクトワーク』凡人社
- 當作靖彦、中野佳代子 (2012) 『外国語学習のめやす 2012』国際文化フォーラム
在サンパウロ日本国総領事館「サンパウロ市概要」(アクセス日:2015/8/24)
http://www.sp.br.emb-japan.go.jp/jp/info/cidade_jp.htm

資料1：第3回目の授業で使用したロールカード

場面1

<p>A-1 待ち合わせの場所で</p> <p>あなたは初めて日本人グループに会っています。しかし、Dさんが遅れています。自己紹介をしてDさんが来ない間、話し合ってください。</p>	<p>B-1 待ち合わせの場所で</p> <p>あなたは初めて日本人グループに会っています。しかし、Dさんが遅れています。自己紹介をしてDさんが来ない間、話し合ってください。</p>
<p>C-1 待ち合わせの場所で</p> <p>あなたは初めて日本人グループに会っています。しかし、Dさんが遅れています。自己紹介をしてDさんが来ない間、話し合ってください。</p>	<p>D-1 待ち合わせの場所で</p> <p>初めて会う日本人友だちの集合時間に遅れて着きます。謝って、自己紹介をしてすぐに出かけるようにしてください。</p>

場面2

<p>A-2 (あなたはブラジル人です) 移動中</p> <p>日本人のBさんの質問に答えてください。</p>	<p>B-2 (あなたは日本人です) 移動中</p> <p>これから行く場所について何も知らないのでAさん、Cさん、Dさんに聞いてください。</p>
<p>C-2 (あなたはブラジル人です) 移動中</p> <p>日本人のBさんの質問に答えてください。</p>	<p>D-2 (あなたはブラジル人です) 移動中</p> <p>日本人のBさんの質問に答えてください。</p>

場面3

<p>A-3 (あなたは日本人です) 移動中</p> <p>Cさんの質問に答えてください。</p>	<p>B-3 (あなたは日本人です) 移動中</p> <p>Cさんの質問に答えてください。</p>
<p>C-3 (あなたはブラジル人です) 移動中</p> <p>日本人の友だちAさん、Bさん、Dさんにサンパウロでの他の観光地に行ったかを聞いてください。</p>	<p>D-3 (あなたは日本人です) 移動中</p> <p>Cさんの質問に答えてください。</p>

場面4

<p>A-4 (あなたは日本人です) 観光地で</p> <p>あなたは見たことのない果物を目にしています。Bさんに何なのか、どうやって食べるのかなどを聞いてください。</p>	<p>B-4 (あなたはブラジル人です) 観光地で</p> <p>日本人友だちのAさんはジャボチカーバを初めて見えています。どんな果物なのかを説明してください。</p>
<p>C-4 (あなたは日本人です) 観光地で</p> <p>あなたは見たことのない果物を目にしています。Dさんに何なのか、どうやって食べるのかなどを聞いてください。</p>	<p>D-4 (あなたはブラジル人です) 観光地で</p> <p>日本人友だちのAさんはジャッカを初めて見えています。どんな果物なのかを説明してください。</p>

場面 5

<p>A-5 食事に誘う</p> <p>日本人友だちを食事に誘ってください。</p>	<p>B-5 食事の誘いを受ける</p> <p>あなたは食事に誘われます。そのレストランで何がお勧めなのか聞いてください。</p>
<p>C-5 食事の誘いを受ける</p> <p>あなたは食事に誘われます。でもあなたは食べ物アレルギーがあるので気をつけてください。</p>	<p>D-5 食事の誘いを受ける</p> <p>あなたは食事に誘われます。でも、あなたは食べられないものがあるので気をつけてください。</p>

場面 6

<p>A-6 (あなたは日本人です) レストランで</p> <p>Bさんの質問に答えてください。</p>	<p>B-6 (あなたはブラジル人です) レストランで</p> <p>ブラジルの食事にはもう慣れたかAさん、Cさん、Dさんに聞いてください。</p>
<p>C-6 (あなたは日本人です) レストランで</p> <p>Bさんの質問に答えてください。</p>	<p>D-6 (あなたは日本人です) レストランで</p> <p>Bさんの質問に答えてください。</p>

場面 7

<p>A-7 (あなたは日本人です) レストランで</p> <p>Dさんの質問に答えてください。</p>	<p>B-7 (あなたは日本人です) レストランで</p> <p>Dさんの質問に答えてください。</p>
<p>C-7 (あなたは日本人です) レストランで</p> <p>Dさんの質問に答えてください。</p>	<p>D-7 (あなたはブラジル人です) レストランで</p> <p>Aさん、Bさん、Cさんにブラジルに来てから日本の食べ物でないと困るものがないかを聞いてください。</p>

場面 8

<p>A-8</p> <p>わかれの挨拶</p>	<p>B-8</p> <p>わかれの挨拶</p>
<p>C-8</p> <p>わかれの挨拶</p>	<p>D-8</p> <p>わかれの挨拶</p>